

令和5年度 和白青松園事業報告書

1. 入所人員について

(1) 入所実績

○ 定員	44名
○ 延定員	16104名
○ 入所日数	366日
○ 延入所児数	10346名
○ 平均入所児数	28.3名
○ 入所率	64.2%

(2) 入所状況

(単位は%：名)

月	4	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
区分	4	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
	初	末	末	末	末	末	末	末	末	末	末	末	末
幼児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小学校	2	2	4	5	5	5	5	7	7	8	8	8	8
中学校	11	11	12	12	12	12	12	13	13	13	13	13	14
高校生	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	5
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	23	25	26	27	27	27	27	30	30	31	31	31	27
入所率	52.2	56.8	59.0	61.3	61.3	61.3	61.3	68.1	68.1	70.4	70.4	70.4	61.3
入所 合計名 9名	2												
退所 合計名 5名		0	1	1	0	0	0	3	0	1	0	0	1
一時保護委託 利用者人数 合計 55名		6	4	4	5	3	3	5	4	4	4	6	7
ショートステイ 利用者人数 合計 265名		15	19	24	24	33	25	21	25	23	17	18	21

(3) 入退所理由

(単位：名)

入所理由 区 分		虐待	就 労	疾 病	拘 禁	養 護	その他	計
年度初現在数		3	0	10	2	8	0	23
入 所 数		0	0	4	0	5	0	9
退 所 数	措 置 変 更	0	0	0	0	0	0	0
	家 庭 引 取	1	0	0	0	1	0	2
	就 職 ・ 進 学	0	0	0	1	2	0	3
	そ の 他	0	0	0	0	0	0	0
	計	1	0	0	1	3	0	5
年度末現在数		2	0	14	1	10	0	27

2. 児童の支援について

(1) 基本理念・基本方針

- ①基本理念 = 児童一人ひとりの立場に立って人権を擁護・尊重し、
最善の福祉サービスを提供する事を目指します。
- ②基本方針 = 人権尊重を養護の基本とし、事故の防止、疾病の予防に万全を期し、
明るく健やかに日常生活が送れるように温かい環境作りに努力する。
(家庭に近づけ、健康で、いつも笑顔のある明るい夢のある生活)

③支援目標

- 一人ひとりのこどもを尊重し、最良の支援を計画・実践する。
- 事故の防止、疾病の予防など、細心の注意を払った対応を実践する。
- より家庭に近い雰囲気を目指し、皆が笑顔で暮らせる温かい環境作りを目指す。
- こどもたちの基本的生活習慣の確立とモラルや生活技術の習得を支援する。
- 安心・安全の確保のため、生活環境の整備に従事する。

施設定員の縮小・入所人数の減少により、一人ひとりのこどもたちへのケアの充実を図った。大きな事故や感染症の拡大も無く、施設生活の安心・安全の提供という点では、各職員の協力のもと、良いサービスの提供に繋がった。

様々な課題を抱えたこどもたちに対応するにあたって、通所及び通院等の業務過多により一般生活の支援が単調になりつつあるため、家庭的な雰囲気を維持しつつ、こどもたちのケアの充実に努め、個別のニーズへの対応を強化する必要がある。

(2) 具体的内容

①小学生

- 生活支援 入所数も増加し、久しぶりに小学生の賑やかな声を聞くことができた。各ホームにて丁寧な支援を心がけ、日常生活の中での成長を促すことができた。放課後デイサービスや地域行事等への参加も実施し、施設内外で多くの経験値を積むことができた。
- 学習支援 帰宅後の宿題を中心に学習支援を行った。生活環境の安定により、学力の向上に繋がるケースも見られた。

②中学生

- 生活支援 通常登校及び部活動に注力するなど、充実した中学生を送るこどもたちへの支援と不登校傾向のこどもたちへの支援を両立し実施した。両支援とも学校を含む関係機関と連携し、個別のニーズに極力対応した支援を心掛けた。
- 学習支援 公文式や学習ボランティア、元教員の方による個別学習支援など、不登校傾向のこどもたち向けの支援を実施した。

③高校生

- 生活支援 基本的には落ち着いた生活を送れるが、一部の高校生は帰宅時間が遅くなるケースが多々見られたため、その都度対応し改善を促した。
- 学習支援 必要な学習は各自取り組むことができたが、不登校傾向の高校生については、提出課題の確認など学校と連携し、支援を行った。
- 進 路 高校卒業生 3名 (進学 1名・就職 1名・未定 1名)
・進学=福岡大学人文学部 ・就職=サンロックジャパン株式会社

(3) その他

①安全・衛生管理

○防災訓練

火災及び防災時の避難訓練を実施した。また、年2回の通報訓練を行った。

○衛生管理

例年通り、児童や職員の定期検診・全職員の腸内検査を実施。また、日頃から手洗い／うがい／手指消毒を推奨し感染症や食中毒の予防に努めると共に、児童・職員の希望者全員にインフルエンザの予防接種を実施し、疾病の予防や体調管理に努めた。

②被虐待児へのケアと権利擁護

心理面接の実施及び個別対応など、被虐待児の心のケアに繋がるような支援を実施した。

③自立支援計画及び児童の研修

こどもたちの家庭復帰や自立に向けての支援計画を策定し、計画的な支援を行った。また、自立に向けてのセミナーや権利擁護についての研修を実施し、自立後の生活や施設内の生活が充実したものになるよう支援した。

3. アフターケアについて

自立支援専門相談員を中心に、自立した児童の状況把握（就学・就労状況）や行政手続きの直接支援など、ニーズに合わせた支援を実施した。

卒業生の帰園時や各種問い合わせ時に支援を行った。また、成人式の際には、ささやかではあるがお祝いを実施した。

4. 職員について

(1) 人員について

(単位：名)

職種 区分	園長	事務員	家庭支援専門 相談員	個別対応職員	里親支援専門 相談員	保育士	心理士	看護師	栄養士	調理員等	合計
						児童 指導員					
定数 (4.1)	1	1	2	1	1	22	1	0	1	4	34
定数 (5.1)	1	1	2	1	1	24	1	0	1	4	36
定数 (8.1)	1	1	3	1	1	26	1	0	1	4	37
4月1日在籍数 含同日採用	1	(1) 1	2	1	1	(2)	(4) 1	0	1	(2) 4	(9) 36
						24					
異 動	年間退職者数 含3月31日 付退職	0	0	0	0	0	(2) 0	0	0	0	(2) 6
						6					
年間採用者数 除4月1日 付採用	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3
			(8.1)			2					
3月31日在籍数 除同日退職	1	(1) 1	3	1	1	(2)	(2) 1	0	1	(2) 4	(7) 33
						20					

※・・・()内は非常勤職員

(2) 充足等について

職員定数(4:1)は34名であるが、実人数は36名でスタートした。

5月1日より一時保護所2か所目の稼働により職員定数2名増

8月1日よりFSW加配により職員定数1名増

非常勤心理士4名を採用。

(3) 職員研修について

職員のケアワーカーとしての資質向上のため、県内外の研修会やその他諸々の研修会に積極的に参加し、入所児童の処遇向上を図った。

昨年度に引き続き、オンラインでの研修参加も併用した。

5/17～18	社会福祉施設新任研修	2名	10/13	市協議会職員研修会 I	4名
5/18	児童養護施設指導者研修	1名	11/6～8	全国児童養護施設長研究大会	1名
5/24	保健・衛生研修会	1名	11/17	西日本こども研修センター研修	4名
6/1	子どもの権利ノート研修	2名	11/30	法人研修	6名
6/8	市協議会新任研修	6名	1/18	説明力向上研修	1名
6/13～15	九州児童福祉施設職員研究大会	4名	1/23	母子保健指導者養成研修	1名
6/14～16	社会福祉施設中堅職員研修	1名	1/25～26	里親養育支援機関研修	1名
6/16	子どもの権利ノート研修	2名	2/13	市協議会職員研修 II	3名
6/16	SBI 研修	1名	2/20～21	県養協職員研修	4名
6/21～22	社会福祉施設中堅職員研修	1名	2/28	ケアワーカー部会主催研修	2名
6/28～30	一時保護専用施設指導者研修	1名	3/7	テーマ別研修	1名
7/13	法人研修	30名	3/25～26	児相・心理治療施設合同研修	2名
7/23	法人研修	8名			
10/12	市児相・社会的養護施設等合同研修	4名			

5. 権利擁護委員会（施設内第三者委員会）について

こどもたちの権利擁護、施設生活の課題、また、現在の社会的養護に求められるものについての報告を実施した。

6. 施設整備について

危険個所の把握及び改善に努め、こどもたちへ安全な暮らしを提供した。

○固定資産物品

業務用パソコン1台

○工事／修繕

事務所棟雨漏り修繕／調理室空調改修

7. その他について

○各種事業

地域小規模児童養護施設 「あすなろホーム」(男児)

地域小規模児童養護施設 「結実ホーム」(女児)

小規模グループケアホーム 4ホーム (男児2／女児2)

一時保護専用ホーム※ 「クローバー」 (男児6名／女児6名)

※ショートステイ事業を含む

自立援助や家族再統合、また、家庭的な生活を目標に、こどもたちの安心・安全な生活の確保に取り組んだ。

○地域交流

こども会や町内会の行事を中心に、こどもたちの参加や備品及び会場の提供など、協力できる範囲で参加させて頂いた。

○実習生、ボランティアの受け入れ

実習生（大学、短大、その他）

- ・ 受け入れ校…16校、実習日数 10日～24日、実習実人員 64名

ボランティアの受け入れについて

- ・ ボランティアの受け入れについてはマニュアルを作成し、職員に徹底し意思の統一を図った。

ボランティア（招待）（敬称略）

- ・ 食事／食材…博多食文化の会／焼肉極味や／博多法人会
- ・ 試合観戦…ライジングセファーフ岡／福岡県市町村振興協会（プロ野球）
- ・ レクリエーション…福岡第一ライオンズクラブ

ボランティア（訪問）（敬称略）

- ・ 学習指導（九大学生）

8. 苦情解決処理委員会について

○令和5年度は特筆すべき苦情報告は無し。

9. 主な出来事

4/5	辞令交付	12/7	第三者評価
4/7	入学祝	12/24	クリスマス会
5/2～5/7	ゴールデンウィーク外泊	1/1	年賀の会
5/17	法人監査		
6/4	こども会球技大会		
7/13	法人研修		
7/24	夜間避難訓練		
8/3	盆読経		
夏休み期間	ホーム行事		
9/3	博多食文化の会食事招待		
10/8	校区体育祭		
11/3	校区立花山登山		

10. 寄付物・寄付金について

○ 寄付物 (敬称略)

・(株)サンゲツ (カーテン)	・(株)博多不動産 (遊具等)
・不二精機(株) (クリスマスプレゼント)	・(株)わっはっは 2 件 (食事招待)
・九州産業大学 (クリスマスプレゼント)	・(株)菅原 (ケーキ)
・アクティネットワーク社 (テレビ)	・(有)ユアーズ (ケーキ)
・パイオニア産業 (テレビ)	・(株)ライフネス カーブ事業部 (食材)
・ファミリーマート原田 3 丁目店 2 件 (食材)	・他 73 件
・(株)環境開発 (ギフトカード)	
	全 87 件 計 4,035,512 円

○ 寄付金収入 (敬称略)

・塩塚千津子	2,344,833 円	・曾根泰子	120,000 円
・(有)港町観光ホテル徳山聡平	500,000 円	・福岡和白病院	118,000 円
・(株)エスネットワーク 酒井一郎	300,000 円	・(株)正興電機製作所	100,000 円
・福岡第一ライオンズクラブ	200,000 円	・	円
・井上敏恵	200,000 円	・	円
・西村博之(4 件)	140,000 円	・	円
		・他 22 件	1,506,492 円
		全 33 件 計	5,529,325 円